

高齢者施設 クラスタ―再び

新型コロナウイルス感染症の新たな拡大で介護施設のクラスタ―が再び急増、

臨近一週間の発生数は766件と過去最多だった第7波(850件)に迫る勢いです。施設でクラスタ―が起きても入院できず感染が拡大したり、高齢者が十分な治療を受けられないまま命を落とす深刻な事態が再び繰り返されています。コロナ禍で丸3年が経過してもなお続く現状。麻田政権の政治責任が厳しく問われます。(内藤真弓子)

山形県にみる

「感染のスピードと規模は5月のクラスタ―の3倍。あっと言う間で17日現在、入所者と職員101人に広がったクラスタ―の対応に追われる山形県内の介護老人保健施設(1

新型コロナ 第7波に迫る勢い

00床。運営法人の常務理事(63)は強い感染力への衝撃を隠しません。

入院できず拡大・検査の遅れ重大

クラスタ―は今年5、6月の58人に続き今年2度目で、この時期感染した人も再感染しています。入所者も職員も9月には4回目ワクチンを接種していま

た。職員1人が体調を崩し抗原検査で陽性が判明したのは11月末。2日後、入所者も職員全員の157人を検査すると利用者6人と職員4人に感染が広がっていました。

制御につとめても
増え続けた感染者

感染区域を定めて入所者を隔離、職員間の接触を最小限にするなど感染制御に努めました。しかし二次感染は防げず、隣性者は2週間以上増え続け、入所者97人のうち77人が感染しまし

た。00床。運営法人の常務理事(63)は強い感染力への衝撃を隠しません。知症対応フロア(40床)へ。「思う。ほぼ全員が感染するまで止

源を有効に活用し感染拡大を防ぎます。知症の人はマスクができず隔離しても部屋から出てきてしま



クラスタ―が発生した介護老人保健施設で食卓の介助をする職員(11月、山形県内)(提供写真)

るために」として、介護施設に軽症者の施設内感染を要請しました。同老健施設では5、6月のクラスタ―で入院できたのは6人にとどまり、うち4人が死亡しました。

同県の介護施設クラスタ―は10月半ば以降激増し1022件と第7波(97件)の1・7倍に上ります。そのもと同施設で今回入院できたのはわずか4人で、うち2人が死亡しました。他は施設内で在宅療養療法や解熱剤の投薬を受け療養しています。

軽病だった男性(89)が陽性判明から4日後に急変し心肺停止

国は自治体まかせ
現場から怒りの声

施設が問題視するのは高齢者施設への集中検査の遅れです。山形県が集中検査の実施を通知したのはコロナ禍で今年11月が初めて。同施設が実施できたのは12月。クラスタ―が発生した後でした。「県の対応があまりに遅すぎる。国は集中検査の方針を出すのが、実施は自治体まかせだ。現場にしわ寄せされている」と事務は怒ります。

またクラスタ―対策や施設内療養に必要な経費への国の財政支援が不十分です。助成対象の「かかり出し経費」には上限が設定されており、同法人は初回のクラスタ―対応ですでに最大限申請しました。今回のクラスタ―で再度交付される補償はありません。「国や自治体が施設内療養を求めると」「かかり出し経費」の上限は撤廃し、経費の全額を、コロナ対応のための補償すべてに補償するべきだ」と事務は強調します。

まらぬ。前回もさうでした。救急搬送しましたが病室で死亡が確認されました。「コロナの病態はまだ分かっておらず怖い。失われなくてもいい命が次々失われています」と常務。職員も80人のうち24人が就業中に感染。同じ法人の他事業所から職員の応援を得てしのいでいます。